

高齢者のためのプレイバスの研究

高齢者の余暇活動を玩具を用いて豊かにする

研究グループ 小林るつ子 (目白大学) 石河不砂 (白鷗大学)
西澤 稔 (前山口大学) 新藤千鶴子 (松戸プレイバスの会)
玩具福祉学会高齢者研究グループ

<要 旨>

20年前の事である、国際障害者年に地域活動として障害児が地域の中で楽しく交わり遊びを通して、成長発達する事も含めて玩具を用いて「おもちゃの図書館」運動が全国に展開した。この実践の中で多くを学び、得た事を今度は地域の中で高齢者に、この活動を生かす事を考えて私達は玩具福祉学会のグループで研究実践に取りくんだ。20年間「おもちゃの図書館」の活動の中で、私達は玩具がこどもの心を癒し、楽しく遊ぶうちにリハビリ効果も見られ、更に1番嬉しい事は笑顔が生まれる事であった。何とかした私達は、お年寄りが長い時間をもてあまして、施設の中では入浴時間の前、食事の前、など多くの待ち時間をただ居眠りをしたり、退屈そうにしている人が多く、この時間を楽しい時間に変えたいと考えた。先ず、調査をしていかに効果良く私達ができるかを考え、英国のプレイバスの活動を研究して先ず始めてみた。

はじめに <キーワード> お年よりの笑顔

英国におけるプレイバス運動は30年余り以前より地域活動として根づいていた。日本の「おもちゃ図書館」運動も英国の活動に習い20年前に推進した。今回は、2002年9月に英国に行くチャンスがあり、この研究でも調べたいことがあり、研究員の石河不砂氏と共に、南ウエールズのブリストルを訪問する事が出来た。この英国プレイバスの団体の代表エリック氏に合う事が出来た。彼は大変若く、多くの質問に答えてくれた。私達が日本でお年よりの為に玩具を車に積んで施設を廻り遊ぶ事は大変喜ばれて居る話しに大変興味を持たれた。今は、英国のプレイバスは必要とされている所に行き、玩具だけで無く遊具車に積み遊園地などに行けないこどもの地域に行き教会の庭で遊園地のような場を作り遊ばせている。その地域とは英国人以外の難民のこどもや、大変所得の低い人達のこどもの地域であるという。此処でエリック氏は「日本は教育においても障害児が分けられている」と発言した。お年よりもシルバー、アダルトなどと呼ぶ事も違う。英国はその区別が無い、其処か

ら考えてみたら？と提言してくれた。この事は大変私達の心に残る。

日本におけるお年よりはいろいろなところで、生活している、先ず特別養護老人ホームを訪ねボランティアの力を借りて始めた。地域は宮城県仙台の2箇所を定期的にお訪ねした、ボランティアは(わたげの会)と言う、ひきこもりの若者のグループで大変遊びも巧く)、やさしい

人達なのでお年よりは直ぐ仲良くなり玩具に興味を示して楽しそうに笑い声が上がり笑顔になり変化がでた、この活動はまず成功した。

別の施設も廻る事になる。しかし施設では今までに無いことで(玩具?)という事でためらう人達が居たが、お年より達の良い笑顔が生まれて、会話が出るので施設側も変ることになり、この仙台の実践を、次に、松戸、栃木、茨城に推進を始めて玩具の調査を始める事にした。

この研究では1、玩具の効果の分類 2、施設の受け入れ状態、 3、今後の問題点などである。

1、高齢者が楽しんだ玩具について
限られた予算の中で、多くの玩具を買えず、大きく分けて、癒し系、コミュニケーション系、運動能力を促進する物、リハビリ系などに玩具を分類した。現在高齢者用玩具を開発している企業は少しはあるが大変厳しい現状だ。高齢者自身が自分は高齢者だから高齢者用の玩具で遊ぶことはなく殆どこの開発は成功していない。それゆえに私達の研究は、市販されている中から選んだ玩具であり、誰でも何処でも手に入れることができる。玩具なのである。

A、癒し系玩具

高齢に成つても女性の方は昔、子育ての経験がある方は特に、赤ちゃんのお人形を見ると目が点になり見つめる。こちらから「赤ちゃんを抱いてみますか？」と促すと嬉しそうに手を出してくる。そつと抱えて、嬉しそうな笑顔が生まれてくる。痴呆と言われて介護が難しい方まで近寄り赤ちゃんのお人形を見つめる。この状況を見て、施設の職員が驚いていた。又この赤ちゃん人形でない他の可愛い人形でも同じ様に皆で集まり「可愛いね」を連発する。この施設にいるドクターがこの状況を見て、この人達は長く入所している人は殆ど笑顔など見せてくれないと言う。皆が幸せそうに人形を抱くお年よりを見て感動した。

癒し系の人形が近年人気であるが、玩具メーカーは若い人向けに開発した、「プリモプエル」と言う人形が、中高年に人気で玩具企業の方も戸惑いを見せている。この人形は、1人でお話をするので中高年の方に人気で淋しさや孤独を癒してくれるので自分の子供のよ

うに大事にしている。これも癒し系のものになるが、テクノロジーを使う事でこのような新しい玩具が開発されたのである。時間を合わせておくと夜になると人形は「お休み」と言いねる。又朝「おはよう」と起きる。

無論、施設でも、デイサービスの場でも大人気である。心の癒しになる事が証明された事になる。企業において過去には、このような事は無く新製品を出したい企業側があまりの人気で商品の生産を止めるわけにはいかない状態である。60万個—70万個の売上で、中高年の方を癒している。淋しさを満たし、楽しさを与えてくれる物が人形では悲しいが、日本の家族関係の現状である。本来ならば、人と人が関り話相手になるべきものが人形や玩具の動物が癒すのである。男性の方は、猫好きの方、犬好きの方などがあるが、動きながら鳴き甘え声で近寄る動物玩具が人気である。これも癒し系であるがハイテクを導入して大変可愛い猫を、なでるとシツポを動かして鳴き甘え声でまた鳴き、なでるとゴロゴロ言う。生きた動物は施設では飼う事が出来ないが、自分のペットのようにして可愛がる事ができる。ハイテクを導入した玩具は育てる玩具とも言う。多く触ると、たくさんの言葉をしゃべり、猫は歌まで歌いだす。プレイバス「車にたくさんの玩具を積んでボランティアが訪ねる」がときどき訪ねる仙台の茂庭園と言う特別養護老人ホームでは皆が「次は何時くるの？」

と、帰る時に言われる。現在の施設では淋しいお年よりが多くボランティアが玩具をもつてお訪ねする事を心待ちにしている。

プレイバスは仙台、松戸、町田、栃木、茨城な

どで、テスト的に進めている。

B, コミュニケーション系玩具

いつもあまり人と関りたくない人が多くて、静かな施設でも、プレイバスが玩具を積んでお訪ねすると、今日は何にしようか？楽しそうに集まる。個人的な楽しみはお人形などであるが、簡単なゲームを紹介すると、始めは毅然とした態度に男性も「俺も野球ならうまいぞ」といい車椅子から立ち上がりバットを振る、これはテレビに簡単に接続して遊べる体感ゲームである。これも本来ならば小さい子供達が遊ぶ玩具であるが仙台の敬風園という施設で、お年よりに遊んで頂くと直ぐに「オー野球だね」とたちまち人気になる、ホームランになると実に嬉しそうに少年の顔になる。この時たくさん見物の人達は拍手をする、1人で淋しそうな施設が1変する。卓球も、ボクシングもあるが野球が1番人気である。コミュニケーションも取れるし、体も動かし運動能力も高める。

対戦型のゲームで遊ぶ事で、あまり人とかわりたくない人達も元気でゲームに熱中する。グラグラゲームという玩具は小さい人形を乗せて落ちないように競うのだが、皆が集まり「がんばれ」コールまででる。ゲームを選ぶ時もあまり複雑な物は駄目で誰でも簡単にできる事が1番である。

C, 運動能力を高める玩具

何処の特別養護老人ホームでも見かけるが、車椅子に腰掛けたまま居眠りのように目をつむり何もする事が無い。時どき、アクチビターとかレクリエーションをしても、たくさんのメニューが無いので静かに何もしていない時間が多い。これはどんどん元気がなくなる。

シューティングゲームなどは2人で楽しめるし車椅子でも机に置いてできる。手を上げて部屋の中を泳ぐ？不思議なお魚の玩具が人気である「お部屋で水族館」という名前でいろいろな魚の形をしたフウセンのよ様な物ですが大変面白い玩具？で、近くに来ると思わず手を出した飛ばしたくなる。いつも体操もせず動きが鈍い方々はゆつくりと空気の中を浮くお魚を楽しみます。

D, リハビリになる玩具

リハビリテーションと言う少し厳しいものがあるが楽しく遊んでいる内にリハビリになるという遊びがたくさんある。先ず小さい可愛いプラスチックの輪のようなおもちゃをつないで、ネツクレスなどを作るおもちゃだ。大きさも、小さいものから大きいものまでいろいろあり、色もカラフルなので、お年よりも、子供たちも人気な大型ビーズです。何処の施設に行っても、喜んで皆が楽しく製作する。調査の為に、仙台の特別養護老人ホーム茂庭園、松戸特別養護老人ホーム南花園、茨城デイケア「いきいきクラブ」など同じ状態で遊んで頂き、殆どの方が指を使い手を使い製作したが、楽しそうで笑顔が生まれるので、デイサービスできた人は、「もう出来たので家の人に見せるので持つて帰ると言い「早く帰りたい」と言い出す人がいる。入所の人も孫の為に作るとか、楽しんで家族の事まで思い出す。自分の力で楽しく美しいものが出来て本当に自信に満ちた顔が輝く。今までは、切り絵とかお習字などは、プレゼントしても子どもたちが喜びそうな作品でないのでこのおもちゃは大変リハビリになるが、またプレゼントを作ることを楽しむ事が調査の結果判

明した。他にも、パーラービーズと言い、プラスチックのビーズをトレイに差込いろいろな絵柄を作り、出来上がるとアイロンで固めるが、これは難しいのでボランティアや施設の職員が手伝う。この玩具もその人の指の機能の状態、大きいビーズと小さいビーズを選べる。それぞれの人の状態に合わせて楽しめる物を選ぶ事が大切であるが、自己決定で自分が決める事も大変良い事である。いかに高齢に成つても自分で何かを製作して楽しむかは人権問題という大げさかもしれないがお年よりの達成感を満たす事も大切である。皆が同じ事をするより、自分が好きな物を選ぶ方が楽しさに繋がることである。

2、高齢者が楽しんだ玩具の種類について

『プレイバスに積んだ、モニター玩具』

A癒し系玩具

プリモプエル「(株)バンダイ」

お部屋で水族館 「エポック社」

くんくんテリー 「イワヤ(株)」

ふりふりミーニャーン「イワヤ(株)」

お友達ちつくワンちゃん「イワヤ(株)」

ミーチャン猫「いわや(株)」

小うさぎフロツピー「いわや(株)」

コロール人形「(株)河田」

こももちゃん「コンビ(株)」

こももちゃん「コンビ(株)」

Bコミュニケーション玩具

黒髭1発ゲーム「(株)トミー」

ホームランクラッシュエアーホツケー「エポック社」

マグネット、ダーツ「(株)河田」

ぐらぐらゲーム「(株)河田」

C、運動能力を促す玩具

体感野球ゲーム「エポック社」

たまごの冒険「コンビ株」

ベビースポーツゲーム「コンビ(株)」

ボーリング、サッカー、ゴルフ

C、リハビリになる玩具

チャーミーリング「(株)河田」

パーラービーズ大、小「(株)河田」

磁石すう字板「くもん出版」

日本地図パズル「くもん出版」

2、各施設におけ調査

A、宮城県仙台の調査

玩具の選定は、前項に記載した種類の玩具をプレイバス（始めはバンの車を借りた）に玩具を詰め込み、宮城県福祉事業団の紹介してくれた『茂庭園』と言う特別養護老人ホームで実践をした。関る人は引きこもりの若者達のグループ「わたげの会」の人達8人とその会のリーダーなど10人あまりで訪問する。今回の主旨を良く話していたので受けいれが良く、机もあり、たくさんの玩具が並んだ。入所しているお年よりは、めずらしそうに集まり何をするのかと興味しんしん。此处で若い人達は「ゲーム面白いよ。。。」と、声をすると会話が始まる『難しいかい?』と訪ねる『簡単だよ、してみようよ』と彼方此方で遊びが始まり会場はたちまち賑やかになる。施設の職員まで出てきて「おもしろそうだね?」と驚きの目で見ている。それは日頃口も聞かないお年寄りが、楽しげに若い人達と話ながら、ゲームをしたり、ビーズを通したり、自分が遊びたい物を選んで車椅子を自分で押して移動している。2時間ばかりお昼の食事前の自由時間をこの遊びの時間にしたが、アツトという間に終わりの時間になり残念そうに遊びの時間は

終わる。『今度はいつくるの?』と言う声がたくさん上がる。引きこもりの若者達は大変良い経験をした。自分達がお年寄りに役立つ大きい喜びを感じていた。又、お年より側では、楽しい余暇活動が増えると元気になり笑顔が出て人との関りも多くなる、プレイバス活動は仙台においては大変成功したと言える。他に敬風園、宅老所なども廻るようになり、この活動は大変お年よりの為には大切な事であり調査した事はこれからのプレイバス運動の方向性が出てきた。

B, 栃木県、茨城県の調査

栃木県においては、何回も学習会を開き福祉を学んでいる学生ボランティア達がこのプレイバスに関るようになった。このリーダーは私達の研究グループの1人石河不砂氏が教えている学生達である。名前を『ぼらえもん』と言うグループである。この活動の理解者の1人に若いドクターが協力している。この医師は『在宅介護』に力を入れている方で、たくさんの助言をした。そして、この活動に賛同して1台の車を、プレイバスに寄付したのである。在宅のお年よりも、デイサービスで通所する人も入所の人も、楽しいので良い笑顔になるとアルファーマーハが出て免疫率が高まると力説する。しかしかの研究も更に正確さ深める為には研究が必要と指摘している。

『ぼらえもん』の活動は仙台のようにデイサービスをしている茨城県結城市の施設の協力で、お年よりと遊び玩具の効果を実証した。石河氏はこの学生達が自発的にお年寄りとかかわる事で、彼らが大変良い笑顔に成る事を実感し玩具の必要性も感じたと言う。

C, 千葉県調査

千葉県松戸市において、研究グループのメンバーの1人であるb「松戸プレイバスの会」の新藤千鶴子氏は地域のボランティアと共に松戸市にある『南花園』と言う特別養護老人ホームに玩具をたくさん持参して、入所の方々と遊ぶ活動を1ヶ月2回している。プレイバスという車はまだ無いので個人の車で玩具を運んでいる。ある日企業の人もボランティアで玩具を持参して参加したが、子供のように喜んで幼児玩具で遊ぶお年よりの姿に驚いたと報告する。ここでも『今度は何時くるの?』と必ず聞かれると報告がある。玩具は前期の癒しの玩具、ゲーム、ボーリングなどさまざまであるが、もう何回も定期的に行くと言いつても上手になると言う。これらの活動は先駆的活動でありお年よりの余暇活動はこれらの実践で笑顔が如何に大切かを学んだ。松戸の場合は回を重ねる事、定期的に行く事が必要と判る。

<まとめ>

『高齢者のためのプレイバスの研究』は、今後更に、玩具と高齢者について学び研究を深め施設、宅老所、在宅のお年よりが毎日の暮らしを豊かに、楽しく、幸せに過ごして頂く為に多くの人々に理解を深め実践を重ねてもらいたい。長い人生を過ごしてきたお年よりが最期の日を迎えるまで良い顔で幸せに過ごすことを考えるべきである。

添付写真について

最期のページにお年よりの楽しそうな状況の写真を記載する。癒し、リハビリ、コミュニケーション、運動などである。

①「私の赤ちゃんだよ。可愛いだろう！」 104

才の人



④真剣に作る「リハビリ型」



②「猫かね？可愛いね。」と笑い転げる。



⑤「私の作ったネックレスよ。いいでしょ。」



③コミュニケーション「エアホッケー」

